

ヤツメウナギ

「ドジョウがいる」と叫ぶ酒井さんの声がしました。澄川森林の中を流れる沢の木道橋の上から見つけた場面でした。下流から数えて3番目の橋でした。近寄ってデジカメでゲットした映像をご覧ください。なんとヤツメウナギの子供だったのです。体側に並んだ7ヶの鰓穴が確認できました。画像には2015年5月7日11時03分と記録されました。こんな所にどうしてヤツメウナギ? と思ってしまいます。



帰宅後調べてみました。日本に住むヤツメウナギはカワヤツメ、スナヤツメ、シベリアヤツメ、ミツバヤツメの4種類がある。石狩川はヤツメウナギが多く棲むことで知られており、江別では2001年まで「ヤツメ祭り」が行われていたそうです。



体型が似ていることから和名にウナギが使われていますが、生き物としては全くの別物なのでした。さらに魚類でもないとのこと。口の写真をご覧ください。顎はなく円形です。これで川底の石などに吸い付いて流されないように位置を保ちます。さらに気持ち悪いことにこの口で自分より大きな魚に吸い付いて吸血・吸液をします。これに寄生吸着された魚の映像がありました。右の写真をご覧ください。人間にもヒルのように吸着することがあるそうです。

澄川の沢では大きな魚を見たという記録はありません。このヤツメは多分スナヤツメではないかと思われる。スナヤツメはアンモシーテスと呼ばれる幼生時代から水中の泥底に潜り漏斗状の口で泥中の有機物を濾しとって食べるとのこと。そして成体になっても寄生行為はやらないで、何も食べずにただ生殖するだけとのこと。これなら澄川で暮らすことが出来ると思われれます。



筆者のデジカメの映像ではスナヤツメと同等できる精度ではありませんので、ネットで探したスナヤツメの写真を添付しておきます。

この日は親子森林教室「森しり隊」のガイド役の予行演習でシイタケの収穫をしながらの林内散策でした。また一つ澄川の自然の豊かさを証明する生き物を確認することになったことを嬉しく思う次第であります。